

製品名: AKT1 マウスモノクローナル抗体**カタログ番号: AMM80803**

研究使用のみ

概要

| | |
|--------|---|
| 説明 | マウスモノクローナル抗体 |
| 宿主 | ねずみ |
| 応用 | WB,ELISA |
| 反応性 | 人間、ネズミ、サル |
| 標識 | 非共役 |
| 修飾 | 未修正 |
| アイソタイプ | Mouse IgG1 |
| クローン性 | モノクローナル |
| 形態 | 液体 |
| 濃度 | 1mg/ml |
| 保存 | アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。 |
| 輸送 | 氷袋 |
| バッファー | 0.05% アジ化ナトリウムを含む PBS で精製された抗体。 |
| 精製 | アフィニティー精製 |

応用

| | |
|------|--------------------------------------|
| 希釈倍率 | WB 1:500-1:2000,ELISA 1:5000-1:20000 |
| 分子量 | 56kDa |

抗原情報

| | |
|--------------|--|
| 遺伝子名 | AKT1 |
| 別名 | AKT; PKB; RAC; PRKBA; MGC99656; PKB-ALPHA; RAC-ALPHA; AKT1 |
| 遺伝子 ID | 207.0 |
| SwissProt ID | P31749 |
| 免疫原 | 大腸菌で発現したヒト AKT1 の精製された組み換え断片。 |

背景

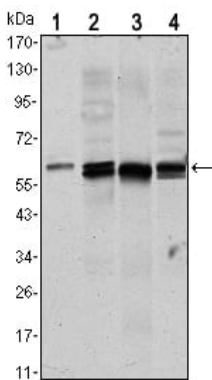
AKT1 遺伝子によってコードされるセリン-スレオニンプロテインキナーゼは、血清飢餓状態の初代培養線維芽細胞および不死化線維芽細胞において触媒活性を示さない。AKT1 および関連遺伝子である AKT2 は、血小板由来成長因子によって活性化される。この活性

化は迅速かつ特異的であり、AKT1のプレクストリン相同ドメインの変異によって阻害される。この活性化はホスファチジルイノシトール3-キナーゼを介して起こることが示されている。発達中の神経系において、AKTは成長因子誘導性のニューロン生存の重要なメディエーターである。生存因子は、セリン/スレオニンキナーゼAKT1を活性化することにより転写非依存的にアポトーシスを抑制することができ、AKT1はその後アポトーシス機構の構成要素をリン酸化して不活性化する。この遺伝子には、複数の選択的スプライシングを受けた転写バリエーションが見つかっている。

研究分野

アポトーシス、TGF- β シグナル伝達経路、PI3K-Aktシグナル伝達経路、mTORシグナル伝達経路、MAPKシグナル伝達経路、Jak-STATシグナル伝達経路

画像データ



NIH/3T3 (1) HeLa (2) COS7 (3) および Jurkat (4) 細胞溶解物に対するAKT1マウスmAbを使用したウエスタンブロット解析。